

第1回当別町まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会 会議要旨

- 1 日 時 平成28年8月25日(木) 15時00分から17時00分
- 2 場 所 当別町役場 1階 大会議室
- 3 出席者 山田委員長、黒澤副委員長、川村委員、宮崎委員、佐々木委員、今田委員、田口委員、佐藤委員
- 4 町出席者 宮司町長(挨拶後退席)、二木部長、長谷川課長、小畑係長、根府主事
- 5 傍聴者 1名
- 6 会議要旨

(1) 町長挨拶(要旨)

先週17日に会議を予定していましたが台風で中止をさせていただきました。本来であれば個々に委嘱状を渡すべきところではありますが、時間の都合等もあり、委嘱状を机に置かせていただきました。まずもって就任を承諾いただきましたこととお礼申し上げます。一昨年、国で地方創生関係の法律が公布され、策定委員会を設置したのをはじめ、町内各種団体、町外の方、議会議員の方々など幅広い意見を取り入れて、総合戦略を昨年10月に策定しました。本日出席の山田委員、川村委員、黒澤委員につきましては、策定委員会のメンバーとして貴重なご意見をいただきましたことに、この場を借りて御礼申し上げます。

この推進委員会は、総合戦略を総合的かつ計画的に推進するため、本年3月議会で条例設置を致しました。この推進委員会の目的は、PDCAサイクル Plan-Do-Check-Act Cycleによって、総合戦略の進捗状況を評価検証、改善するというので、「産」「官」「学」「金」「民」といった様々な分野からご活躍されている皆様から私の方で選ばさせていただいたということにより、よろしく申し上げます。

今後の取り組みについては、事務局から説明させますが、今日の推進委員会では、まず、地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金、いわゆる地方創生先行型で行われました事業について評価及び検証をお願いするということになります。国の平成26年度補正予算で実施しました事業についての評価、検証になり、国からも指示がありましたのでよろしく申し上げます。総合戦略は策定して終わりではなく、これから実行することが重要で、PDCAサイクルを行っていくことで年々向上させていくものである、委員皆様の活発な議論をお願いします。(挨拶後退席)

(2) 委員自己紹介

(各委員自己紹介)

(3) 委員長および副委員長選出

当別町まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会条例第4条第1項の規定に基づき互選により選出。 → 委員長 山田委員 副委員長 黒澤委員
山田委員長～委員長に就任しました山田と申します。昨年は総合戦略の策定委員会の

委員長、隣の黒澤副委員長とともに委員会を開催させていただきました。昨年の策定委員会は、町民、議会、町内各種団体と一体となって昨年10月策定しましたが、ただ計画を策定するだけでなく、これからはいかに検証しながら推進していくのがこの委員会に課せられた役割だと思います。

(議題)

- (4) 当別町まち・ひと・しごと創生総合戦略の概要について 資料1
～長谷川課長説明
- (5) 地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金（地方創生先行型）に関わる効果検証について 資料2
 - ・地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金（地方創生先行型）の概要説明
 - ・地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金（地方創生先行型）効果検証調書に基づき説明～小畑係長説明
- (6) 今後のスケジュールについて 資料3
～小畑係長説明

<議題に対する質疑等>

佐々木委員～整理番号1番の企業立地事業について、交渉企業5社とあるがどのような規模、大きい小さい等の選び方、どのような戦略で取り進めたのか。実際交渉している5社はどのような感触だったのか。期待度はどの程度なのか。駄目な部分や課題を指摘してくれたことやいいことを言ってくれた等、今後に繋がる部分について教えて欲しい。

整理番号2 首都圏等販路拡大事業について、参加者100名は一般消費者だと思うが、今回交渉した4店舗というのは、どのような関与の仕方でも交渉ができたのか。ビー・トゥー・ビー（B to B）で商材を取り引きして欲しいという方法と一般消費者100人、80人に対する満足度は、どのようなものか。

(事務局)～一昨年、首都圏の企業誘致セミナーを北海道銀行の手引きをいただき、白老町、栗山町共催で東京都大手町で開催をしました。そのときに当別町に興味あった食品加工業2社に働きかけをしている。その他流通1社、飲食1社となっており、4社は食品に関係している。この4社については、引き続き働きかけを行っている。なお、こちらから、目星を付けて企業にアプローチということは正直ないところでもあります。ホテル業については、当別町出身者が札幌でホテルを経営している方に継続的にアプローチしている。企業の感触について、食品加工業1社について、まずは、当別町の農産物を購入や取引をすることは始まりました。町としては、食品加工場を建設してもらうのが最終目的となっています。実情としては、工業団地がない中で企業誘致をしていることもあり、勧められる土地が限られており、現状立地については感触は厳しいところでもあります。流通関係は、国道337号当別

バイパスが完全4車線化となり、これから千歳空港まで整備が続き、流通における動脈として期待されています。国道337号沿線は、石狩湾新港に近いことや千歳空港に直接行ける高規格道路となるところですが、現状はなかなか厳しい状況であります。ホテル業については、現状の当別町が観光資源に乏しい状況ですが、新たな観光資源の候補として、当別ダム湖など景観を起爆剤として、誘致活動を行いたいところではありますが、現状は非常に厳しいところでもあります。総じて感触は厳しいと思っております。

2点目の首都圏販路拡大事業の4店舗の関係ですが、委員ご指摘のとおり基本的に参加者は、その食事目的に参加している方が大半ですが、今回の主催者が株式会社イトウォーク（AWキッチン）となっており、東京では結構有名な会社であることから、イトウォークが取引している取引先の方々も一部参加していました。その取引先の参加者等の繋がり最終的に4店舗になりました。今後取引を増やすことを主眼とすると、事業者向けの食事会開催も検討する必要があると思います。

佐々木委員～企業立地はすぐには難しいことは認識しているので、駄目な理由、良い理由を分析して次に繋げていく蓄積が大事である。すぐに立地にならなくても商品等の取引が開始され最終的に立地に繋がる事前の事については、ノウハウの積み上げになるので、この手の事業は分析をしないといけない。分析をして次のステップとなり目標設定を状況に応じて変えていくことが必要だと思えます。

山田委員長～交渉企業5社や取引4店舗について、今後とも継続していくのか、状況が厳しいからやめるのかについてはどうですか。

(事務局)～交渉企業5社は今のところ感触が厳しいですが、脈がないわけではないので、もちろん継続していきます。その継続性を持たせるため、先般当別町企業誘致推進協議会を設置し、行政のみだったのを、農協、商工会が参画した協議会となり体制を整えていることでもあります。今年度に入ってから交渉企業が増えてきており、全部で10社となっております。先ほど佐々木委員からお話のあった、当別町に来てもらえない理由を積み上げたものを分析し次に繋げていきたいと思っております。

宮崎委員～全般的に2つの見方があって、この委員会で意見等助言をすることと思っておりますが、先行型の事業について当初設定したKPIについて、結果がどうなったのかと、総合戦略のKPIに対してどの程度前に進んでいるかの2つのことがあると思っております。今後の検討材料として、事業をやった場合、やらなかった場合を比較しないとなかなか図りにくいと思えます。5年のKPIの進み具合について、この様式だと分かりにくいので検討願います。ロードマップがあればより分かりやすいと思えます。

(事務局)～先行型事業はアウトプットの指標が多く効果的なアウトカムの指標が少なかったと思えます。今回の先行型交付金は、国で短期間で補正が生まれ、交付と

なってしまったこともあり、なかなか適切な指標を組むのが難しかったと認識しています。また、本来であれば、この先行型の事業を行ったことによって、総合戦略の進捗状況がお伝えできればよかった思っていますが、総合戦略を策定してから約1年程度ということもあり、効果が表れていない部分もあり、今回の委員会ではなかなかお示しできなかつたということでもあります。また、様式についても再度検討します。

今田委員～中野区の連携事業については、石狩振興局が関係していたこともあり、28年度の実施についても、地域づくり総合交付金を活用する予定となっております。昨年の物販の事業の時にアンケートを実施していると思いますが、その際物販内容に関するアンケートを実施しましたか。

(事務局)～この先行型事業で行ったアンケートは、物販に関するアンケートではなくて、当別町の認知度、イメージに関するアンケートしか実施しませんでした。当別町から持って行ったものについてもアンケートを実施すればよかったと思いましたが、今回の物産展イベントの最大の目的は、北海道内でも認知度が低いことから、当別町を知ってもらうことです。今回は、採択が11月となったことで12月に実施したこともあり、本来持って行きたかった、新鮮な野菜やとうもろこしがありませんでした。今回は加工品やロイズの商品に頼ったものとなりました。話は変わりますが、移住ツアーについては、降雪がたくさんあった日に開催となってしまいましたが、除雪がちゃんと行き届いていると印象をもたれたことや道路除雪についてもきちんとされていると感想をいただきました。

(その他意見等)

佐藤委員～当別町に11年住んでいるが災害に全くあっていない。こんな安全なまちはなかなかないと思っている。昭和56年に水害があったと聞いているが、11年住んでいて、台風、水害、地震の被害にあうと思ってましたが、災害にはあっていない。また、犯罪や事故もほとんどなく、防犯協会等の会議を行っても逆に議題に困っている状況である。青少年の非行問題もほとんどない。生活には、安全なまちでおいしい空気、水、自然がありそれが財産だと思っている。人を呼び込むには産業も大事だが、安全で平和なまちということも町のアピールポイントだと思っている。

田口委員～委員の皆さまから出ていましたが、様々な意見を取り入れるためには、アンケートは大事だと思っている。当別町のイメージについて、どのような聞き方をして、結果こうなっているかはとても気になる場所である。特に整理番号8番のアンケート内容について、今後教えてもらいたい。

<先行型各事業に対する意見（要旨）>

整理番号1（企業立地促進事業）

- ・現在継続中の交渉企業について、更なる調査・分析をすべきである。

整理番号2（首都圏等販路拡大事業）

- ・企業誘致交渉は、長期間を要すことから、その前段としての首都圏で取引実績をつくることは、有効であり今後は継続性が重要である。

整理番号3（省エネルギー化促進事業）

- ・（特になし）

整理番号4、整理番号5（学力向上対策事業）

- ・（特になし）

整理番号6（当別町・新篠津村特別区連携プロジェクト事業）

- ・アンケート方法についてより効果が見込める内容にするよう改善を図ることが必要である。

整理番号7（地域資源を活用した農業活性化事業）

- ・今後は継続性や他品種への挑戦が必要である。

整理番号8（（仮称）当別町道の駅プロジェクト推進事業）

- ・アンケート調査実施は、ニーズを把握する手段として有効であった。その結果を最大限利用することが重要である。

（以 上）